

## 地区とのタウンミーティング 議事概要

日 時	令和7年2月5日（水）午後17時00分～午後18時00分
地 区	私市山手地区
場 所	私市山手自治会館
参加人数	17人

### テーマ「地域公共交通会議の進捗状況について」

主 旨（区長）

- 昨年度のタウンミーティングで、当地区が市長に伝えたコミュニティバスの件について、進捗状況を聞かせていただきたい。また、当地区にコミュニティバスを走らせて欲しいと伝えている件について、昨年度はバス停を4か所設置することは難しいと聞いたが、せめて自治会館前にバス停を設置してほしいと考えている。

市 長

- [資料参考]令和7年度より、この様なバス路線になる見込みとなっているため、確定事項ではないが参考に見ていただきたい。
- 私の選挙公約の重点施策の一つにコミュニティバスがある。当然検討もしてきたところであり、私市山手地区から要望書をいただいていることも事実である。
- 交野市としては、京阪のバス路線がない場所は市でカバーをしたいと考えており、昨年9月2日より、おりひめバスとして、オレンジ色の路線をタクシーカーに委託して運行をスタートした。なお、1時間当たり1運行で、運賃は300円、乗車可能人数は9人である。
- 京阪バスが通っていない場所について、市としておおよそ公共交通の整備が完了できたと考えていた。しかし、8月に京阪バスより、交野市内の路線をほぼ全て廃止するという通告を受けた。なお、津田一香里園間である黄色の路線と、直Qバス（高速バス）のみ路線を残すというものであった。
- コモンシティ星田に行く路線は、ピーク時で1時間当たり約60人が乗車するため、9人乗りのワゴン車では賄えない路線まで廃止すると通告があったため大変驚いた。この状況を踏まえ、市でバスを運行するしかないと考え、バス運転手の確保に努めたが、大阪万博の子ども無料招待事業やシャトルバスの関係で、運転手の確保が難しい状況にあることから、特例で地域公共交通会議に諮り交通空白地に認めてもらったため、本来営業用であれば二種免許が必要なところを一種免許での運行可能となった。
- バス事業者に関しては、以前より交野市のイベント等で、貸し切りバス運転手を派遣していた大新東（だいしんとう）株式会社という事業者に運転手を確保してもらう。なお、京阪バスの路線廃止が決定した以前から、河内磐船駅に行かないことが問題となっていたことから、その件を解消した上で、市でバスを運行することとした。

- 青色のルートに関しては、元々東倉治、寺、神宮寺にワゴン車を走らせていたルートで、京都京阪(京阪バスの子会社)株式会社と契約をしている。こちらを延伸することにより、私部、向井田、青山のエリアについては、ワゴン車を1日9本運行することで対応していく。
- オレンジ色の路線はタクシー会社に依頼しているルートで、これまで交野市駅が発着であったが、1時間1周のルートで河内磐船駅まで延伸できることが判明したことから、河内磐船駅発着で青年の家経由—梅が枝—松塚—郡津—幾野を通るルートに次年度から変更することで、2月の地域公共交通会議に諮る予定である。
- バス停の位置等における路線の改善については、住民説明会等で意見を聞き、令和8年度に改善を行う予定である。
- なお、様々な事業者と契約している費用に関しては年間約2億円がかかり、運賃収入については、数千万ほどと推測される。現在、主に70歳以上の方を対象にしている外出支援制度の4600円については、来年度も継続する予定である。現在の交野市の検討と見込みについては以上である。

## 意 見

- 市長がおっしゃったコミュニティバスについては、「おりひめバス」、「市長が立候補時の公約で述べたコミュニティバス」、「京阪バスが廃止するにあたってのコミュニティバス」の3種類があると理解しているが、我々が要求しているコミュニティバスに関しては、どのように検討されているのか。私市山手の現状に関するお聞きしたい。  
→[市長]まず、「おりひめバス」というのはあくまで名称であり、今回京阪バスの撤退路線について、市で走らせるコミュニティバス(中型バスやワゴン車)の名称は全ておりひめバスとするよう考えている。

私市山手には私市駅があるため、市が進める状況で公平性と公正性を保つためには難しい現状である。なお、私市山手地区の標高は約50mとなっており、一番高いところで約90m、高低差で言うと約40m程である。ここへ市がバスやワゴン車を走らせるとなると、他の地域(南部地域の星田山手、南星台、妙見東等)に説明がつかない。この地域(南部地域の星田山手、南星台、妙見東等)では隅から隅までバスが走っておらず、高低差も大きい。なお、妙見東は入口付近で標高が100m程あるが、隅々までバスを走らせることができておらず、今後も住宅地付近にバス停を設置することは困難である。また、私市山手の課題はルートにもある。現状のバス路線を、私市山手を通るルートに変更する場合、私市駅を通って再度戻ることになるため、距離が長くなり効率的に周れるルートが無く、市としても対応に苦慮している。また、私市山手のみの配車となると、年間1500万円程の費用がかかるため実現は難しいと考えている。

## 区 長

- ゆうゆうバスが私市山手まで走っていたときは、藤が尾、妙見坂の住民も私市駅を利用し

ていた。私市山手までバス路線を延伸することがそれほど難しいのかと思うところもあり、私市駅に来る方の外出支援も含めて考えていただきたい。

→[市長]過去ゆうゆうバスは2台で運行していた。利便性が高い地区を除き、各地区おおよそ1箇所のバス停を周っていたため、バス停は多く設置されていなかった。しかし、今回市が運行するコミュニティバスは、過去のゆうゆうバスに比べてバス停を増やすざるを得ない。私市山手の近くを通る緑色で示された南部路線に関しては、私市5丁目にバス停があるが、星田方面を経由すると1時間程度かかるため、これ以上の延伸はバス停の数を考えると困難である。また、通勤時間帯になると緑色の路線であっても乗客が20名を超え、ワゴン車に置き換えることは難しい状況であり、中型バス車両になると私市駅や私市山手に停車することも困難である。また、過去のゆうゆうバス（マイクロバス）では、電子マネーであれば対応可能だが、自動で料金を受ける機械の設置も難しい。なお、日野自動車のポンチョ（よくコミュニティバスに使われる車種）については、入手が難しく導入が困難である。これらの様々な要因から、私市山手にバス路線を通すことは困難であることをご理解いただきたい。一番可能性が高いルートは、オレンジ色の路線を私市駅まで延伸させるという案だが、現状最短のルートが無いため市としても対応に苦慮している。

- バス路線を通すことが難しいと十分理解した上での質問だが、自治会等が要望書を出している状況で期待感を強く持っているため、もう一度検討をしていただけないか。

→[市長]私の公約を掲げた段階でおおよそ何処に路線を通すかという図面は皆様にお配りしている。なお、私市山手地区に関しては当初から除外していた。また、経緯については去年説明したとおりである。また現状、私市山手にコミュニティバスを1年程の短期間で走らせるることは不可能であると考えている。令和8年度にはバス路線を改善する予定であるが、バス停位置等の詳細部分を変更する予定であるため、そこに私市山手を含めることは現時点では難しいと考えている。なお、私の任期が令和8年の9月であることから、それ以降の回答はできかねることをご理解いただきたい。

## 意 見

- 交野市全体で高齢化が進んでいる中で、私市山手の山手側から降りる手段について、災害時のこと踏まえた対策を考えて欲しい。

→[市長]災害と交通については別の問題だと考えている。災害に関しては、私市小学校が指定避難所に指定されており、緊急防災減災事業債を活用して、7割を国の負担で体育館にエアコンを設置したところである。また、4月には星の里いわふねが新たに避難所として指定される。次に公共交通に関してだが、交野市が現状より過疎化が深刻な地域であるなら、市でワゴン車を走らせ、家の近所まで送迎する仕組みにすることも可能だが、交野市はそこまでの過疎地域ではない。また、交野市の高齢化率は28～29%で全国平均と変わらず、大阪府の平均よりも若干低くなっている。転入に関しては、

年間で約300人の転入超過で、子育て世代の方に多く選ばれている自治体である。また、場所によっても様々だが、通勤通学の関係で朝の6~7時台は20~60人が乗車する系統のバスもあるため、交野市の公共交通では、現在のバス路線を維持せざるを得ない。なお、一部の地区のみ市でワゴン車走らせ、家から駅等に送迎することは、税金を使う行政として説明責任を果たすことができないためご理解いただきたい。なお、今後も計画的に持続可能なまちづくりを進めていく中で、定時定路線のバスについては持続せざるを得ない状況である。また、高齢者の方や一部の地域のみならず、行政としては様々な世代や地区に対して公平で公正でなければならない。なお、公正公平でなかつた場合については、説明ができる状況にしなければならないと考えている。

- 交野市民に充実して住んで欲しいという考えはないのか。京阪バスの補填ばかりで、本当に必要とされている地域にバスが通っていないように感じる。資料を見ると、緑色の路線は河内磐船駅を経由しているが、星田駅に向かう赤色のルートがあるのに、わざわざ交野市駅から河内磐船駅を通って、同じ学研都市線につなげる必要があるか。また、緑色の路線を私市山手に通すルートも可能ではないのか。
  - [市長]京阪バスは、当初バス路線がなく一定需要のある地域(特に南星台、妙見東、妙見坂)に、後からバスを走らせものである。緑色の路線は、過去に河内磐船駅に行くルートから、フレンドタウンを通って交野市駅に行く現在のルートに変更しており、河内磐船駅に行けないため星田駅に路線を通してほしいという理屈は成り立つ。しかし、市として一番説明がつかないのが、ゆうゆうセンターである。市の医療福祉の拠点であるため、河内磐船駅に行けないということは外出支援と医療福祉の面でも問題が生じてしまう。
- 資料のピンク色の路線を廃止し、緑色路線だけ運行すれば良いのではないか。
  - [市長]こちらについては星田エリアであり、ピンク色の路線をコモンシティに回さないと朝の時間帯は定員超過でバスに乗車できない方がでてきてしまう。
  - [市民]ピンク色と緑色の路線はなぜ同じ地域を運行しているのか。
  - [市長]南の地域はバスに乗車している方も多く、一番標高が高いところで約150mあり、駅までは徒歩30~40分かかる。一方で私市山手については私市駅が地域内にあり、標高は約50mで、一番高い場所でも約90mであるため、星田山手と同列に扱うことはできない。むしろ同列に扱った方が公平性公正性に著しく影響を与えると考えられる
  - [市民]住みやすさとしては、不便になっていると感じている。
  - [市長]この件については受忍していただきたい。私は過去、ゆうゆうバスが廃止された際に、必死になって反対運動をしたが、私市山手は反対運動を途中で中止したため、ゆうゆうバスは不要であるとの印象を受けた。このことを受けて、公約から私市山手のバス路線については消した次第である。市長に当選後に、バスが必要であると言われても対応は難しい。また、ゆうゆうバスを廃止したのは前市長であり、私は当時必死になつて署名を集め反対もしたが、私市山手については反対運動を途中で止めている経

緯についてはご理解いただきたい。

- 途中で反対運動を止めたという話があったが、その様な経緯は一切ない。なぜ誤った認識のもとにこだわっているのか理解ができない。要望書についても「地区でまとめて提出してほしい」とのことだが、実現の可能性がなければそのような話にはならないはずである。  
→[市長]要望書を出すなと言うことはできない。なお、少なくとも老人会の市星連会長や、役員の方達と話したが、要望を止めたことは間違いないと聞いている。また、「要望を止めた事実はない」とおっしゃるのであれば、役員の方々が間違っていたと示していただかないと納得することは難しい。  
→[市民]どのような内容で要望を止めたと聞いているのか。  
→[市長]市は当時、ゆうゆうバスを廃止する方向で動いており、当時の議員も廃止に賛成していたため、私市山手として反対はできなかったという理由である。
- 市星連会長から「私市山手が反対運動を裏切った」と聞いたのは事実なのか。  
→[市長]私はそのように聞いている。また、途中で反対運動を止めたことと、集会に来られなかつたことについても確認している。  
→[区長]この件については、市星連会長の認識不足であるため、私から話をさせていただく。現在、市長が行っている、国の補助金等を活用し、市の負担にならないような政策は素晴らしいものと考えている。また、過疎化は全国的な問題であるため、国が実施する政策等があれば、私市山手にも知恵と知識を活かした提案をご教授いただきたい。  
→[市長]石破政権となり、地方創生についての交付金の申し込み手続きを進めているが、京阪バス撤退に伴い市が負担するバス費用は、既に契約済のため、補助金の申し込みができないことが2月に判明した。結果的に、市が負担するバス運行に関わる2億円程度の費用は、国交付金が活用できないことがわかった。なお、これは令和7年度の話であり、令和8年度は、国の補助金対象となるかは未定であり、来年度に内閣府・国交省と協議をする予定である。  
→[副市長]ゆうゆうバス廃止以降、外出支援制度についても市長が改善を図ってきたことはご理解いただきたい。また、以前ご提案をいただいた「タクシーでも4600円が使えないか」という件も、今年度から利用可能となっている。引き続き、交野市内全域で使える外出支援制度は存続するため、ご活用いただきたい。

## 区 長

- 市にコミュニティバスの要望書を提出したが、私市山手地区でコミュニティバスを運行することが難しいことを、私市山手の住民に対して直ちに説明しない方がよいか。  
→[市長]私市山手にコミュニティバスを走らせるることはできないと伝えさせていただいてよい。コミュニティバスに関する要望書を出すように伝えた覚えはなく、提出された要望書を市が受け取らない訳にはいかない。今期(市長任期中)に私市山手地区でコミュニティバスを走らせることはできないことは事実であり、公約にもしていない。

他地区においては「コミュニティバスを走らす」と明言して当選したことは事実である。私市山手でコミュニティバス走せると、追加で新たに一台分の費用が発生し、年間数千円の負担になることになる。また、他地域との関係もあるため、私市山手地区のみ新たにコミュニティバスを走らせることはできない。

→[区長]市星連会長の私市山手が裏切ったという発言から始まったのがよくわかった。

→[市長]当時の議員や、梅が枝地区老人クラブ会長からも話は聞いている。集会にも来なくなったりとも確認している。

→[区長]こちらで確認させていただく。

→[市長]この件があつたため、全世帯に配布した、公約におけるコミュニティバスの路線イメージから私市山手地区を除外している。なお、反対運動を止めたことは私自身も確認をしている。

→[区長]我々は反対運動を止めていない。

→[市長]署名を集めて提出したことは間違いない事実である。

## 意 見

- 反対運動の中にも様々な活動があり、大勢(地区単位等)で行う活動や、独自で行う活動があると考えられる。私市山手地区は、ゆうゆうバスが遅れて導入されたため京阪バスも入れない等、他の地区に比べて特異な事情があることも認識している。ただ、署名も集め要望書も提出しており、受け取ったという話もされているうえで、私市山手が反対運動を中止したから見捨てるということは問題ではないか。
- [市長]公約から私市山手を外したことは問題ないと考えている。当時の判断としては、「もうバスは必要ない」と受け取らざるを得なかつたため、公約から私市山手を除外している。なお、その後要望を受けたため市として検討したが、地理的な問題や、ルートの問題でバスを走らせるることは難しいと判断した次第である。

## 区 長

- 市星連会長等から、私市山手が反対運動を中止したとの意見を聞いた時、なぜ私市山手に事実確認をしなかつたのか。
- [市長]当時の区長に電話をして確認を取っている。
- [区長]私と電話をした時、反対運動をしない等の話はしなかつた。
- [市長]反対運動を止めた理由を聞くと、「当時の議員との関係があるから」とおっしゃつていた。
- [区長]そのような話はしていない。
- [市長]このままでは、言った言わないの話になってしまふ。なお、当時の議員にも直接確認したところ、私市山手には別の考えがあるということも聞いた。また、少なくとも老人会・区長・当時の議員から同じ見解が得られたため、一般的にはそのように考えられるの

ではないか。

→[区長]それは違う。

→[市長]このタウンミーティングで言った言わないの話をしても仕方がない。ただ、この件が無かったとしても、現在の状況で私市山手にワゴン車を走らせることは難しい。私市山手で走らすとなると、南星台、星田山手、妙見東も同様にワゴン車を走らせなければならぬためである。

## 意 見

- ゆうゆうバスは私市山手を通って妙見坂方面まで走っていたが、その路線を再度復活することが難しい理由は予算の関係か。
  - [市長]ゆうゆうバスは特定の定点しか停車せず、細かな停車はしていなかった。もし、ゆうゆうバスを走らせるとなると、現在他地区で運行しているバスの通勤客に、バス利用を止めて頂く必要がでてきてしまう。
  - [市民]通勤客に関係なく、特に高齢者の方に利用していただきたいため、昼間に私市山手で運行してほしい。
  - [市長]私市山手の高齢者は助かるが、(他地区で現在バスを利用している)サラリーマン・学生の方が不便になってしまう。
  - [市民]大人数が乗車できるバスではなく、マイクロバスの様な小さい車両でよいため検討していただきたい。
  - [市長]現在バスを利用している方がいる中で、その路線を廃止することはできない。また、既に2億円の費用が必要となっており、これ以上市として負担できる状況はない。なお、運転手も不足している状態である。
  - [市民]京阪バスが撤退した理由は何か。
  - [市長]不採算路線であることに加え運転手不足が原因である。これまで撤退していた「寝屋川・枚方・八幡」でも同じように撤退が進んでいる。また、話も聞いてもらえない状況である。市としての対応は、何もしないか、独自でバスを走らせるかの二択となつたため、後者を選択した。
- 今回市が走らせるコミュニティバスは、以前運行していたゆうゆうバスとは違うのか。
  - [市長]以前運行していたゆうゆうバスと、今回のコミュニティバスは別物である。以前のゆうゆうバスはコミュニティバスではなかつたため、無料で乗車可能であった。なお、公約や重点施策において、ゆうゆうバスを復活させるとは公言していない。今回市が運行するコミュニティバスは、京阪バスが廃止した路線に加え、京阪バスが運行していなかつた地域についてもカバーしている。
- 高低差よりも高齢化率の高い地域を優先的に考慮した方が、整合性が取れるのではないか。
  - [市長]妙見坂・妙見東・南星台・私市山手地区が開発された時期にあまり差がないことか

ら、高齢化率もほぼ同じである。また、高齢化率で考えることは適当ではなく、地理的な条件について、私市山手には地区内に駅があるという決定的な条件がある。

- 急勾配の坂があり、車いすや自転車では登れないため住民が困っている。また、公約に掲げていなくてもそれ以上のことを行ってもらいたい。  
→[市長]実際に要望は聞いており、検討はしている。急勾配の坂は、他地区でも同等の坂があり、私市山手を特別に優遇する理由にはならないと考えている。また、障がいをお持ちの方が利用できる有償のワゴン車もあるが、この件は障がい福祉の話となる。
- 先程から議員の名前が出ているが、私市山手選挙区という制度ではないため、誤解のないようにしていただきたい。  
→[市長]当時は私市山手地区の役員でもあった。
- 地域の代表で話をしたところ、私市地区独自での外出支援制度を行いたいという意見もあったが、バスを通したいことが大前提であり基本的な考え方である。中には反対意見の方もあるが、地域全体の会議で決め、要望書も提出し、ゆうゆうバス廃止の反対をしてきた。しかし、廃止反対を止めた話になっていることが信じられない。  
→[市長]私はそのような話を聞いたため、私市山手地区を公約から外している。その後、ゼロベースで検討もしたが、やはり高低差やルートの問題から対応することは難しく、私の残された任期中の対応は不可能だと考えている。
- コミュニティバスの予算2億円は税金である。私市山手住民も税金を払っているが何も優遇されていない。また、高低差の問題で言うと、現在バスが走っている青山地区に高低差はないのではないか。  
→[市長]青山地区には、元々バス路線が通っており、空交通空白地にも指定されている。また、既存の東倉治・神宮寺・寺のルートをそのまま周ることができるために、追加費用がほとんど発生しない。
- [市民]同じ税金を納めているのに不公平に感じる。過去、ゆうゆうバスが運行していた路線を有料で運行することはできないのか。  
→[市長]税金を全ての地域に全額を使えるわけではない。あくまで不公平な部分の是正のために2億円を投じており、すべての地区に2億円の便益が図られるものではない。例えば、現在小学6年生から中学3年生まで給食費を無償化しているが、その対象者以外の方には便益はない。ゆうゆうバスについては、前市長時代に廃止となっている、また、有料で運行することもできない。

## 区 長

- 今回、期待していた回答を得ることはできなかったが、原因がよくわかった。今後は原因を発信した方に対して、私市山手地区として対応していきたい。  
→[市長]市星連会長が言った内容は真実と思っている。なお、この件について話があったかなかったかで変わったことは、公約に載せたか載せてないかである。現状のフラット

な状態で私市山手地区にワゴン車やバスを走らせることは難しいと考えている。私市地区で、ワゴン車やバスを走らせると他の山手地域にも同様に、年間バス1台につき2千万円を投じることとなるため交野市では実現できない。

以 上